

まずトップをきったのはOKU。

ココは躊躇しては負けと、何も考えず覚悟を決めて「エイヤッ！」と飛び降りました。

仲間たちが次々と飛び中、いよいよ最後はI(脳性マヒ)の番です。

実はこのIは、かつては富士登山にも挑戦し、見事に車椅子で日本の頂上まで上り詰めた命知らずのチャレンジャー。

彼は、硬直した上半身と足を、二人のいかついカナダ人に抱えられ、「せえのお～」と、まるで丸太棒を投げるように、天空に放り投げられました。

ギャ～!!!

そのとたん、Iのものすごい悲鳴が溪谷中にこだましたのでした。(おしまい)

◎お知らせ

ピアサポート主催 **「ひまわり映画祭」**

3月30日(土)ひまわり事業団2階会議室

「もうろうを生きる」(10時～、13時～)

「博士と彼女のセオリー」(13時～)

入場無料、詳しくはピアサポート(287-5588)にお問い合わせ下さい



橋本コラム トールのトーク

児童虐待など、ニュースをつければ暗い話が多い。

虐待は親から子に連鎖すると聞くと、親から受けたものにより自分が嫌な思いをしたことを子供にするなどとは信じがたい。これも人間心理の複雑さということか。

過去、飲酒によって暴言を吐く父に腹を立てたぼくに、『お酒がやらせてるのだから許してやりな』と諭した母…。

誰かに助けてほしかったな。そんなことが重なってしまって虐待の報道にはつらくなる。児童相談所を東京青山に建てる計画に一部住民が猛反対していたが、青山ブランドって何なんだ。

そんなもの子供の安全に変えられるものとは到底思えないどころか、他者との差異化を守りたいだけの話だ。愚にもならない似非(えせ)優越意識。

子供がのびのび暮らせる社会が来てほしい。

もちろん、全部の人が安心な社会であることは言うまでもないが。

静岡障害者自立生活センター：橋本徹

“どんなに重い障害があっても
地域で共に生きる社会”を目指して!

NEWS



2019
3月号

発行 静岡障害者自立生活センター
(NPO 法人ひまわり事業団)

〒422-8006 静岡市駿河区曲金 5-4-58

TEL:054-270-6380

FAX:054-287-4922

E-mail:syoujiki@scil.jp

ホームページ:http://www.scil.jp



★ものづくり*音*食★
みんなで楽しんじゃいました!!

~今月の目次~

- 報告：ものづくり・音・食 みんなで楽しんじゃいました！（それいゆ就労継続支援B型）……2
- 「差別」についてもう一度考える インクルーシブ社会の実現のために……4
- 連載：ひまわりヒストリア 1979年静岡障害者自立生活センターの設立……6
- 連載：サポーター×サポーター 橋本徹×川嶋由佳乃……8
- 報告：POP CIRCUS 富士公演行ってきました（放課後等デイサービスらるく）……10
- 事業紹介：相談支援事業所ピアサポート「委託相談」……12
- 連載：旅マイスターOKUのインディー旅のすすめ その4……14
- 橋本コラム「トールのトーク」……16

・昨年12月2日に、それいゆ初めての試みでアートイベントを開催しました。
「それいゆハンドメイドランド」と「冬の絵本ランド」は、作る・音・絵本・食が、
ごちゃまぜで、誰でも楽しめる、何でもアリなワークショップです。

福祉をメインにするのではなく、アートをメインにすることで、今まで事業団に
来たことのない方や、近隣の方たち、学生さんなど300人以上の方たちが足を運んで
下さいました。

参加された方の笑顔・今までに見たことのない姿に、驚きと感動がたくさんありました。
至らない点もたくさんあったかと思いますが、みなさんの温かいご協力やご参加、
本当にありがとうございました。



開始前★
まだ静か・・・

館内にあるサイン
は、佐野さんのイラ
ストと大地君の文字
です♪



とても集中して描
くふたり。



音楽にのせて・・・
お父さんも童心に帰ります
♪子ども達の笑顔もピカピ
カです♪♪♪



清水の就Bキャンバスさん
による、子ども用カフェラ
テと、コーヒー豆の焙煎体
験。コーヒーの香りに癒さ
れます☆彡



手芸担当の con*tio
(コンティオ)
山口さんと杉さん。



人生初の手芸に挑
戦中！！



シルグスクリー
ン、BOBho-ho
のホシノさん→
ウエダさん↓



クッキーペンダ
ント、準備中☆彡
音楽担当、麻君とあ
ずさん♪



これが描きたかっ
たの！！



子ども達の真剣なまな
ざし・・・
集中して描く子どもた
ちの姿が印象的です♪



作ったペンダントで
にっこり。



スープ屋
Hygge さんの特製スー
プ♪

学生ボランティアさん
も、大勢来てくれ
ました！



あの頃のイケメン☆
幻のツーショット！！



イラストレーターの
友野さん。(作品は、参加
された方のもです)



読み聞かせの
川畑さん。

「差別」についてもう一度考える

「差別解消法」が出来てから、今年の4月で3年を迎えます。

そして、「静岡県障害を理由とする差別の解消を推進する条例」が、同じく今年の4月で2年になります。

法律や条例が制定されはしましたが、現状の社会の中ではまだまだ浸透していません。

普段、意図的に「差別をしよう」と考えている人はいないと思います。しかし、現実には差別的なことは日々起きてしまうのはなぜか。誰も悪気はないし意図的に差別しようとしていないわけでもない。これは、「差別とは何か？」ということがいまだ共通の理解として浸透していない理由の一つとして考えられるのではないのでしょうか？

何が差別となるのか、合理的配慮を提供することとは何か？を知り、理解していかないと、日常の中で起きている差別的取扱いに気づかない（気づけない）のです。

では、「差別」はどのような類型があるのか？

①直接差別

機能障害そのものを理由に、区別・制限・排除すること。

②間接差別

表面的には中立的な慣行や基準を当てはめることで、障害者に結果的に不利な扱いをすること。結果的に不利になること。

③関連差別

機能障害に関連する事由によって、障害のない人と比べて、区別・制限・排除すること。

④合理的配慮を行わないこと

実質的な機会の平等のために、必要な配慮を行わないこと。

以上、大きく4つの類型に分けられます。

しかし、類型を解っても、難しい言葉が並びその解説も難しい。実際に日常の中で差別が起きた時、その場面に遭遇した時、それが何が差別なのか、どこに差別があったのか、すぐに判断できることはなかなかできることではないと思います。日々、過去の差別事例などを通して差別に対する視点（何が差別にあたるか、どこに差別があるのか）を養っていくことが大事です。

例えば…

次の事例を考えます。

車いすを利用しているCさんは、初詣で近所の神社（市内有数の神社）に出かけました。境内は参拝客で混雑しており、前方の路面状況は見通せません。境内内の橋を渡り終えたところで、橋と地面の段差でバランスを崩し転倒してしまいました。受け身が取れず顔から地面に落ち、額に裂傷を負いました。これは、橋の構造上、勾配と地面の段差があるためです。

後日、神社管理事務所へ出向き、境内内のバリアフリー化を求めましたが、「車いす利用は構わないが、境内内での“乗り物”（自転車等）の乗車は原則禁止しているため、“車輪のついた乗り物”からは降車しなければならない。これは、神社のしきたりなので、変更はできない。」と言われました。

【判断】

ここには、どのような差別があるのでしょうか？

①車いすという障害に関係することのみではなく、「乗り物は禁止」という一般的な事柄が理由になって、不利益を被っている。

という『関連差別』

②車いすが結果的に理由となって、不利益を被っている面もあるため。

という『間接差別』

③障害を持つ人に配慮したルール変更などを行っていない。

という『合理的配慮の不提供』

というように、差別の類型と照らし合わせて、「何が」「どこが」差別となるのかの視点を持つようにする。そして、これは、障害のない人たちへ発信していくことも大事ですが、障害当事者自身がこの視点を持つておくことが重要になります。

参考資料：DPI日本会議「これは差別？差別ではない？」

（文責：静岡障害者自立生活センター 大川速巳）

ひまわりヒストリア～あの日あの頃～

その5 1979年 静岡障害者自立生活センターの設立

文責:奥村譲

実は、日本で最初のCIL(自立生活センター)???

日本の障害者自立生活運動の歴史を紐解くと、

「1983年、日米障害者自立生活セミナーが全国6カ所で開催され…」

この時に来日した、ジュディ・ヒューマンやマイケル・ウィンターといったアメリカの自立生活運動の先駆者たちに触発され、日本の障害者の中にCIL(自立生活センター)設立の気運が高まった。そして、

「1986年、東京都八王子市に日本で初めての自立生活センター「ヒューマンケア協会」が誕生した」

…と、なっている。

ところで、静岡障害者自立生活センターの創設者である、渡辺正直(まさなお)が書いた、「静岡障害者自立生活センター30年の経緯」(2008年?執筆)の中には、以下のような文章が見受けられる。

「1979年(昭和54年)4月、ひまわり共同販売所での経験を活かし「ひまわり寮・豊田障害者自立生活センター」として再出発する。」

「1984年には、それまで「豊田障害者自立生活センター」としていたセンターの名称を「静岡障害者自立生活センター」と改めた。」

ムムムっ?1979年?

実は、私たち(静岡障害者自立生活センター)の方こそが、日本で最初のCIL???

しかし、ここで、どちらが「元祖CIL」なのかを争っても、あまり意味がないのでやめておこう。

ただ言えることは、「そのくらい静岡の自立生活センターの歴史は古い」、ということだ。

静岡CILの草創期～「豊田」から「静岡」へ

1979年にひまわり寮の中で看板を掲げた「豊田障害者自立生活センター」の「豊田」とは、当時、ひまわり寮が、静岡市駿河区の豊田町にあったからだ。

先ほどふれた、日本の障害者運動に大きな影響を与えた1983年の日米障害者自立生活セミナーには、静岡の障害者たちも参加した。

渡辺をはじめとする静岡のメンバーたちも、全国の仲間たちと同じように、来日したアメリカの障害者に大いに刺激を受け、翌年(1984年)、名称を静岡障害者自立生活センターと改め、ひまわり寮から独立して、市内駿河区豊原町に事務所を構えることになった。

当時の主要メンバーは、渡辺を入れて4人。彼らは、15坪ほどの狭い事務所で、日々顔を突き合わせて、議論したり、バザー(どろんこ市)をしたり、古新聞や段ボールなどのリサイクル品を集めたりする一方で、ILP「らしき」ことや、ピアカン「らしき」ことをした。

このように、静岡の活動は決してスマートに体系化されていたわけではないし、介助派遣サービスもまだ始めていなかったのだから、おそらく「自立生活センター正史?」からは、「日本で最初のCIL」と認めてもら

えなかったのかも知れない。

とって「泥臭かった」静岡の活動

先ほど、スマートではなかった…と表現したが、静岡の自立生活運動はむしろ「泥臭い」という表現の方がピッタリだった。

アメリカ帰りのカッコいい障害者がいたわけでもないし、「サービス」や「事業」という洗練されたコトバで、自らの活動を表現できる障害者がいたわけでもない。

そもそも、静岡のメンバーは、キチッと背広を着てデスクに座っていたのではなく、バザー品や古紙集め、野菜や自然食品の販売のために、車椅子やリヤカーで、日々、地域の路地裏をさまよっていたのである。

こうした、「泥臭さ」や「地域性」こそが、静岡のCIL運動の特徴であった。

私の個人史と静岡CIL

静岡障害者自立生活センターの草創期を語る時、その多くは、私自身の個人史と色濃くリンクする。

ひまわり寮に、渡辺の泊りボランティアに行くと、小さな「豊田障害者自立生活センター」の看板が掲げてあったのを覚えている。

先ほどから何度も触れている、歴史的な1983年の日米障害者自立生活セミナーには、私も参加している。…というか、「とにかくついて来い!」と言われ、当時学生だった私はワケもわからず、メンバーの介助ボランティアとして同行させられた。

1984年に「豊田」から「静岡」と名前を変えて独立した豊原町の事務所は、4年で大学を卒業できず、住む場所を失った私を温かく迎え入れてくれた。

私は、スキマ風だらけのオンボロ事務所に、寝袋ひとつで移り住んだ。

風呂や洗濯は、一軒置いて隣に住んでいた渡辺の家でお世話になった。その代わり、週に2回ほど寝返り介助のボランティアをした。

昼間は、自立生活センターのバザーや古紙回収を手伝い、事務所の看板(写真に写っているもの)も書かされた。

事務所から、時々バイトに出かけ、お金がたまったら何か月もインドを放浪し、帰国するとまた事務所に舞い戻って、ほんのちょっとだけ大学の授業に行った…

おっと失礼。気がついてみたら、静岡障害者自立生活センターの歴史を書くつもりが、すっかり自分史になってしまっていた。

私にとっては、静岡CILの思い出は、そっくりそのまま自らの青春時代の思い出でもあるのだ。



サポーター×サポーター

橋本徹×川嶋由佳乃

互いに支え合う、「利用者ヘルパーの関係」に焦点を当てる本企画。

第4回目は、この機関誌の「橋本コラム」の執筆者、橋本徹さんと、川嶋由佳乃ヘルパーに、お話を伺いました。

なお、橋本さんは特別な事情により、当団体の中で異性介助が認められています。



★プロフィール 橋本 徹

昭和29年12月26日 64歳、B型。

簿記2級、情報処理技術者資格、手話サークル会長。

趣味：映画鑑賞(マスカレードホテルを最近見た)

ミステリー小説と政治関係など。音楽、さだまさしとビートルズ、隠れアムラー?

長所：名前の通り、始めたら最後までやる!

短所：気が短い。

★プロフィール 川嶋 由佳乃

2月23日、B型。

経歴：結婚式場に15年勤務。

静岡登録手話通訳者。

平成20年よりヘルパーを始めて現在11年目。

趣味：フラダンス(施設の慰問活動に励んでいます)

美容関係のマッサージは得意。



○橋本さんと川嶋さんとのヘルパーとしての出会いを教えてください。

橋本：当時、蔵屋敷の事務所前のスーパーもちづきの前でバッタリと会ったことがきっかけ。事務所のピアサポートに自分が勤めていて、そこから買い物に行くことが大変だと思っていた矢先だったので、つつい自分の介助者として誘った。川嶋さんとは手話サークルからの付き合いだから26~7年になるかな。

川嶋：結婚式場に15年くらい勤めていました。松坂屋にも勤めていたが契約が切れてフリーだった時期に徹さんに声をかけられ、どんな世界かな?全く知らない世界に興味を持って飛び込み現在に至っています。サークル時代、様々な体験を通して、元気と勇気をもらいました。今も徹さんから色々な事を学び続けています。

○華やかな業界から介護という地味な業界に移って思うことはありますか?

川嶋：結婚式場では、毎日目まぐるしく動いていましたが、こちらでは見守りが多かったり、利用者さんの主体性に合わせて動いていかなければならないことに最初は戸惑いを感じました。最初の頃は、結婚式場と徹さんの介助を掛け持ちしながらバランスを取っていましたが、段々と比重が多くなって、今現在では、ひだまり1本で働いてサービス提供責任者もやらせてもらっています。

○理想とする生活は?

橋本：もっと外に出たい。ベッドの上は嫌だ。

○ヘルパー無しで、ひとりで過ごす時間が多い印象があり、心配になる時があります…

橋本：ヘルパーが24時間ずっといると、死んでしまうよ(笑)

ヘルパーは必要だけど正直気を遣ってしまう。一人の時はパソコンやテレビ、デージー図書(朗読)楽しんでいるよ。

○今は手動車椅子での移動ですが、以前は電動車椅子に乗られていたと聞いていますか?

橋本：電動車椅子を乗り回した身には、今は不便に感じている。2010年に今の拠点、中田に引っ越してくるまでは電動車椅子に乗っていた。もう一度暴走したい(笑)

○暴走した面白いエピソードを聞かせて下さい。

橋本：警察にスピード違反で止められた。水落の交番、元の家の前で。切符は切られなかった(笑)その当時は、あまり家に居なくて遊びまくっていた不良少年だったよ。

眺めのいい処が好きで、桜の季節には駿府公園のお堀に出没したり、日本平動物園に行ったり…これはさすがにバスだったけど。電動では清水まで行ったかな…草薙の野球場を見たかったんだ。

○自由な縛られない生活を楽しんでいましたね!

橋本：清水には友達がいて、待ち合わせをした。

○女性?デートだったんですか?

橋本：(照れながら)そう。手話サークルの友達のMちゃん。

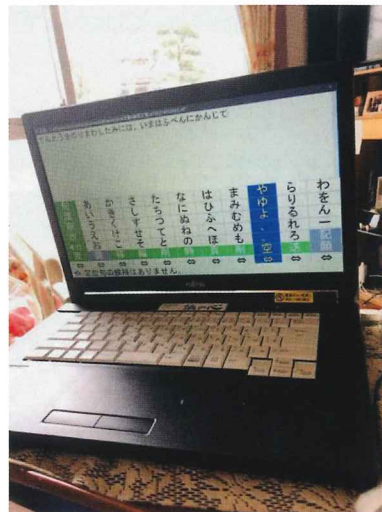
○手話サークルで会長を務めたと聞きましたが、いつ頃からやっていたんですか?

橋本：1981年から6年間会長を務めたけど、関わりは30年くらいかな。このサークルで川嶋さんとも出会った。

○障害をもつ後輩たちに伝えたいことは、ありますか?

橋本：今の障害者は大人しい。もっと、無茶すればいい。色々やりたいことがあれば挑戦すればいい。

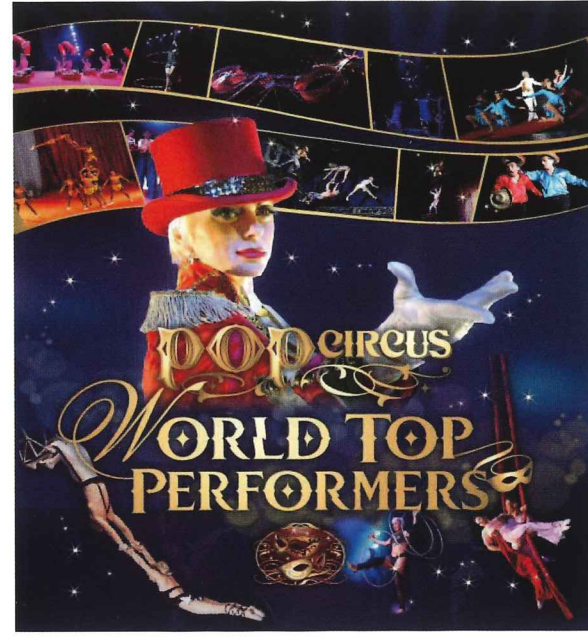
もっと自分の気持ちを大事にしてほしい。危ないことをやらないのではなく、もっと冒険をしてオブラートに包まれた生活を破ってほしい。



POP CIRCUS 富士公演



行ってきました！



「ポップサーカス」とは、世界 14 か国の
サーカスパフォーマーが
超人的な肉体と技を駆使した圧巻の
アクロバットを披露する
本格的エンターテインメントサーカス！

昨年 11 月下旬にポップサーカス富士公演事務局からご案内が届き、早速「子供たちと行きたい！」となりました。企画作りにおいて場所の確認や時期的な事などを考慮しなければならない事、また会場がどのようなになっているかを事前に確認する事を行いました。

- ①場所：富士総合運動公園にあり、らるくから片道約 50 キロ、1 時間の車での移動であること。
- ②公演期間：12 月 8 日～2 月 3 日と寒い時期での開催であることや、場所が富士山のふもとであること。
- ③会場内：車いす席が 4 席であること。
- ④開演 50 分前には会場に着いておくこと。 などなど・・・

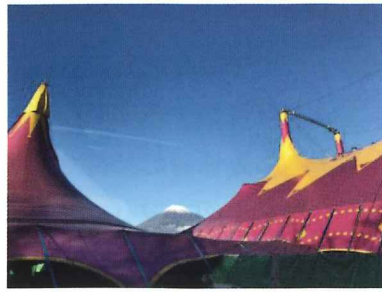
これら課題を一つずつクリアしなければ、安心安全に行けない事をらるく職員内で確認しました。



まず、
終日の活動になる事や、車いす席に限りがある為、土曜日の開所を 3 回行う事にしました。公演時間に合わせて、通常 10 時からの受け入れを 9 時にし、防寒対策をしっかりとってきてもらう事を保護者と共に確認しました。

当日、お弁当、水筒持参し、しっかりと暖かい格好をした子供たちが集まりました。
荷物の確認や保護者との連絡事項の確認を済ませ、富士へと出発！！

車中は音楽を聴いたり、お話をしたりと周りの景色を見ながら
だんだん大きくなる富士山へと近づいて行きます。
現地到着、凍えそうな寒さを想像していたのですが、
天気も良く、寒さも和らいでいたので、気持ちの良い天候でホッとしました。

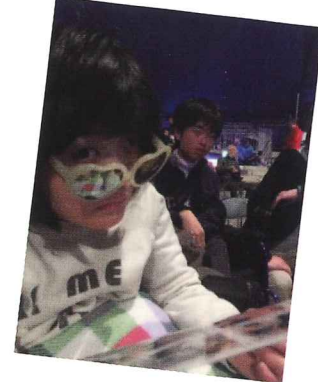


～10～

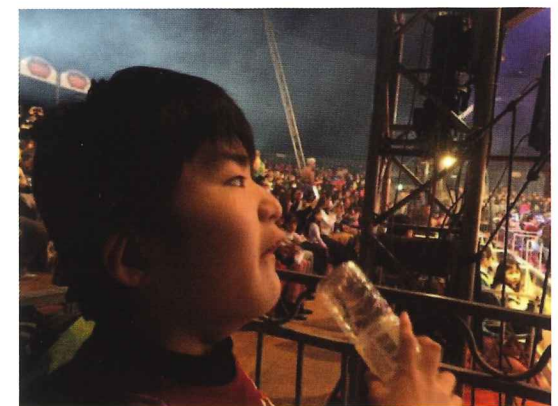
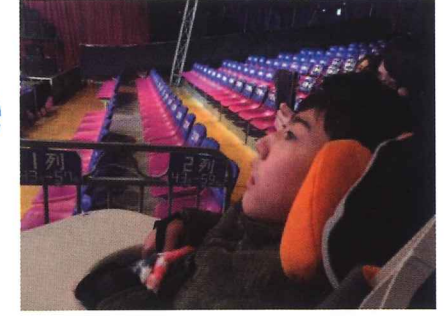
車いす席までは暗い通路を通って行きました。
スタッフの方がペンライトで
足元を照らして案内してくれました



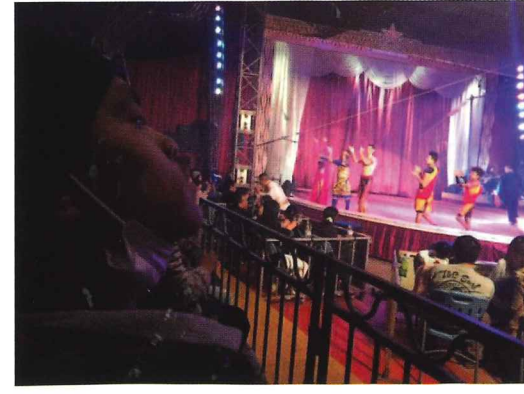
パフォーマンス中は撮影禁止！最後のフィナーレ時に撮影許可が！！



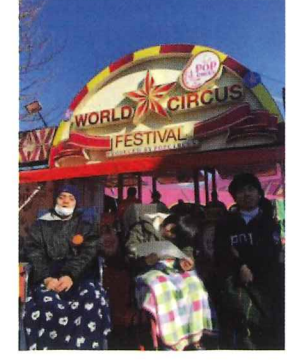
会場内は暖房完備で暖かかった！



とても真剣に見たり、聞いたり刺激たっぷりの時間を過ごすことができました！



ただ、楽しかった！
で終わるのではなく、外出することで私たち職員も子供たちの新たな発見が出来たり、気づきがあったりと、有意義な時間を過ごすことが出来ると実感しました。ご協力して下さった保護者の皆様には感謝しております。
ありがとうございました。



相談支援事業所ピアサポート「委託相談」

☆ピアサポートはひまわり事業団の中で、相談支援を行う部門です。

▼相談支援事業所ってなに？

：障害のある人が、地域でその人らしい生活を送れるように、専門の「相談員」が様々な相談をうけます。仕事の内容は色々ですが、相談員は大まかに、

①「障害福祉サービスの利用支援」

②「施設・病院などから地域へ出て生活する場合の支援（地域移行支援）、

地域で安心して生活するための支援（地域定着支援）」

③「その他、様々な悩み事についての一般的な相談支援」

を行います。



▼「委託相談」ってなに？

：静岡市から委託（仕事を任されること）を受けて、上の文章の③「その他、様々な悩み事についての一般的な相談支援」を主に行います。障害のある人の生活・福祉に関する様々な問題について、ご本人・ご家族・その他の関係者など、「誰からの」「どんな相談」にも応じます。その上で、一人ひとりに合わせて必要な情報の提供、障害福祉サービスの利用支援などを行うほか、権利擁護（成年後見制度の利用促進や、障害者差別解消法に関わる問題の解決など）のために必要なサポートも行います。

※ピアサポートは、障害者虐待に対応する最初の相談窓口の役割もあります。

▼どんな相談を受けてくれるの？しちやいけない相談はある？

：相談の内容にこれといった決まりはなく、本当にどんな相談にも応じますが、

○本人や家族の持っている力を最大限発揮できるようにサポートする、**エンパワメント**を基本にしています。

○相談員自身は「問題を解決する人」ではなく、**福祉サービスを使うお手伝いをしたり、様々な専門家の力を借りて連携**することで、問題解決をお手伝いします。

ちょっと難しい説明になってしまいましたが、「困ったら、まず相談する場所」

だと思ってくださいね！（*^。^*）



▽ピアサポート 委託相談 連絡先：054-287-5588

★ピアサポート委託 相談員の紹介

相談者さんを中心にしたサポートとは何かを、今も模索中です。
ドジとおちょこちょいが年々増えていることが気になる今日この頃です。

り けいじゆん
李 恵 順



ピアサポートにきて1年が経とうとしています。
毎日、勉強させてもらっています。

こやなぎ めぐみ
小柳 恵



一人きりの男性相談員です。
相談の仕事始めて3年目になります。
一人ひとりに合った支援のために、自分に出来る精一杯を目指していきます。

りゆう よんちよる
劉 瑛 哲



旅マイスターOKUのインディー旅のすすめ

～その4カナダでバンジージャンプに挑戦～

「施設生活＝ツアー旅行」であるとしたら、「自立生活＝インディー旅」です。自立生活を目指すアナタは、もちろん旅もインディーで行きましょう！…と、いうわけで、旅マイスターOKUがこれまで、障害を持つ仲間たちと経験したインディー旅をご紹介する企画の第三弾は、「I（脳性マヒ）とS（筋ジストロフィー）とのカナダ旅行」です。この旅を、例のごとくツアー旅行社風に表現すると、

バンクーバーでミュージカル鑑賞を楽しんだ後、ロッキー山脈の麓をレンタカーで駆け抜け、バンジージャンプに挑戦！カナダの大自然とアルバータ牛のステーキを堪能するワイルドな8日間！

〇〇万円



さてさて、どんな旅だったでしょう？

男5人のヘンテコ旅

カナダ、と聞いて、皆さんは何をイメージしますか？針葉樹の森と青く澄んだ湖、そそりたつ白銀の山々…やはりカナダと言えば、ロッキー山脈でしょう！「ちっちゃくて狭いニッポンを飛び出して、カナダの大自然を満喫したい！」こんなリクエストに答えるべく、OKUは脳性マヒのIと進行性筋ジストロフィーのS、それぞれの介助者を連れて、男ばかり5人でカナダの大地を旅することになりました。ロッキー山脈の麓をレンタカーでぶっ飛ばし、アルバータ牛のステーキに舌鼓を打とう…という魂胆です。もちろんホテルは、行き当たりばったり。北米大陸は、ハイウェイ沿いにモーター（モーターホテル）が適度に点在しているので、飛び込みでも何とかあります（このモーターというのが、部屋のすぐ横まで車をつけられるし室内は広くて段差がないので、車イス旅行者には意外と便利でした）。

いざ！ロッキー山脈へ！

旅のはじまりは、カナダ西海岸の玄関都市バンクーバー。高層ビルが建ち並ぶ一方で、海と山がすぐ身近にある、とっても魅力的な街です。バンクーバーのバーで旅の始まりを祝い、ミュージカルを楽しんだ後、OKUたちはレンタカーを借りて今回の旅の目的地、ロッキー山脈を目指しました。都会を抜けてしばらく走ると、すでにあたりは山々が織りなす大自然のふところ。「気持ちいい〜っ！」OKUたちは、すっかり調子に乗って、大平原の中の一本道を**ガー！！！！！！**と、かっ飛ばしました。すると、**ピー！！！！！！**と、どこからともなく高らかな笛の音が。なんだ？なんだ？なんだ？なんだ？なんだ？そうなんです。調子に乗ってスピードを出し過ぎる輩（やから）を取り締まるカナダ警察なんです。「アイアム、ジャパニーズ…コチラのルール、ワ・カ・リ・マ・セ・ン…」

OKUたちは、「どうか哀れな外国人旅行者にお情けを！」と必死にうったえましたが、カナダ警察はまったく容赦してくれず、約1万円のスピード違反の罰則金を支払うハメに。トホホ…

バンフの町で温泉につかり、富豪の招待を受ける

OKUたちは、なんとか気を取りなおして、ロッキーの麓の町バンフに辿り着きました。バンフでは、白銀の山々を望む広大な露天風呂を楽しみました。水着を着て入るので、風呂というよりは野外の温水プールといったカンジです。OKUたちが、浮き輪に乗せたIやSを囲んでキャッ！キャッ！と、はしゃいでいると、それを珍しいと思ったのか、品の良さそうな白人夫婦が声をかけて来ました。彼らはなんと、ロスアンゼルスからバカンスを過ごすために、はるばるバンフまでやって来たアメリカ人の社長夫妻。「キミたちをぜひディナーに招待したいから、今晚私たちのホテルへ来てほしい…」ラッキー！！OKUたちは、社長夫妻が滞在している豪華なホテルのレストランに招待され、思いもかけず、ふだん滅多に食べないご馳走にありつくことができたのです。

バンクーバー島でバンジージャンプに挑戦！

ロッキーの大自然を満喫した後、OKUたちは、バンクーバー島へと渡り、なんとバンジージャンプに挑戦することにしました。バンクーバー島のナナイモにあるバンジージャンプは、42メートルの橋の上から、眼下の溪流めがけてまっさかさまにダイブすることで有名です。筋ジストロフィーのSだけは、「さすがに命の保障はない…」ということであきらめ、脳性マヒのIと他のメンバー計4人がチャレンジすることに。受付の門をくぐると、カウンター横のディスプレイには、車椅子に乗ったままの状態ダイブする命知らずの障害者のビデオなどが繰り返し映し出されていました。さすがカナダ！障害者のスケールも違うぜ！OKUたちは、ひとり約1万円の参加料を支払い、順番に誓約書にサインをしました。心なしかペンを握る手が震えます。その誓約書には、「万が一事故があっても、決められた保険の範囲内の金額しか請求しません…」ってというような事が書かれていました。順番を待っている間、OKUたちは、次々とトイレへ駆け込みました。「ジャンプした途端に、あまりの恐怖に身体の中のブツが全部出てしまったら、あまりにみっともなく、今後の人生に影響する…」と考えたら、急に“もよおし”たのです。



そして、いよいよ自分たちの番がやってきました。OKUたちは、まるで断頭台に登るような気分で、溪流に架かる橋へと続く階段を一步一步上がりました。橋の底板の隙間からは、はるか下の溪流に浮かぶゴムボート（ジャンパーを回収するためのもの）がゴマ粒のように小さく見えます。それもそのはず、地上42メートルは、ビルで言えば12階ぐらいの高さになるのです。